

今回のおすすめメニュー



NO IMAGE



『透明人間のくつ下』

アレックス・シアラー 著

金原瑞人 訳

竹書房

請求記号：933シ 所蔵館：勝連

ちょっとあじみ

社会見学の自由時間、一番面白そうな場所、「リトル・ホラー博物館」を訪れた、先生と生徒たち。「けっして展示品にはさわらないでね。一生後悔することになりますよ」と忠告をうけて、入館します。この博物館には、いろんな展示物がなっているけど、どれも奇妙なものばかり。例えば、「首しめ男の手袋」「デッドマンの靴」…他にもたくさん。最後に「透明人間のくつ下」。でも、そこには何も無いように見えます。みんなはインチキじゃないかと疑い、本物かどうか確かめたくて、触ってしまいます。すると、おそろしいことが…

物語は、駅の待合室で、ちょっと怪しげな男性が語っているという設定です。何箇所かに、その待合室での場面がでてきます。そのページは何故かアリの行列の挿絵…（最後までよんでみるとわかりますよ。）登場人物は多いのですが、それぞれにいろんな変化がおき、とても楽しいです。ぜひ、読んでみてください。—最後に、語っている男性の名前が知りたいのですが、読んでみてわかったら教えてください。